

令和4年度 第3回湧別町自治推進委員会 会議録

開催日時	令和5年2月22日(水) 午後6時55分 開会 午後8時56分 閉会
開催場所	湧別町文化センターTOM 研修室
出席委員等	委員 安瀬委員長、松浦副委員長、平野・山口・花木・佐藤・ 中原・松下・斉藤・遠藤・三品各委員 オブザーバー 石塚総務課長、坂本社会教育課長
欠席委員等	鈴木・本間・工藤・平形各委員
事務局職員	企画財政課：猪熊課長、西海谷主幹、齊藤主査
議題	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 議題 (1) 第2回自治推進委員会の会議録について (2) 自治基本条例に基づく各種制度の取り組みについて (3) 次回会議日程について 4. その他 5. 閉会
会議の公開	公開
傍聴人の数	0名
提出資料	(1) 第3回湧別町自治推進委員会議案 (2) 第2回湧別町自治推進委員会会議録 (3) 町民参加に関する資料集
会議録	■ 有 (<input type="checkbox"/> 全文筆記 ■ 要点筆記) <input type="checkbox"/> 無
その他	

1. 開会

猪熊課長) ご案内の時間より数分早いですけれども、予定されている委員の皆さん出席しておりますので、ただ今より3回目の自治推進委員会を開催させていただきます。本日の会議の出席者数は11名であり、委員の過半数が出席しておりますので、本日の会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。

2. 委員長あいさつ

猪熊課長) それでは、安瀬委員長からごあいさつを申し上げます。

委員長) いつもお忙しい中、出席していただきましてありがとうございます。今回で3回目を迎えることになりました。事前にご案内のように、今回を含めて5月、8月、11月、今年も4回の会議となっております。お忙しい中とは思いますが、皆さんに協力していただきまして今日のテーマでありますこの会議も町民参加ですので、最後まで協力をよろしく願います。

猪熊課長) これからの進行については、安瀬委員長に進めていただきますので、よろしく願います。

3. 議題

(1) 第2回自治推進委員会の会議録について

委員長) それでは、会議を進めて参ります。本日の議題は、次第にもあるように三つ用意しております。

最初に、議題の「(1) 第2回自治推進委員会の会議録について」確認したいと思います。事務局から簡単な説明をした後、前回の会議を振り返ってみたいと思います。では、事務局よろしく願います。

西海谷主幹) (議案1頁に基づき説明)

委員長) 前回は「情報共有」について話し合いました。住民自治の確立と、まちづくりを進めるうえでは、町民、議会及び行政機関が同じ情報を共有することが大事だと思います。

前回の会議では、行政からの情報発信の仕方や町民、議会、行政が情報を共有する方法について説明を受けましたが、町民主体の自治の推進に向けた行政の情報提供のあり方について、ご意見があれば受けたいと思います。

事務局から説明があったように、議案1頁の中段から下に委員から出された主な意見ということで八つほどあるのですが、これが前回話し合われた中身の集約というか、まとめたものです。もし良かったら、前回欠席されている方からご発言をいただければ委員全員から意見が出たことになるので、もし何かありましたらよろしく願います。

委員) ここに書いてあるLINEは案外良いかな。でも、登録する人がどれくらいいるのかなとLINEのところに注目して見ていましたが、それぐらいです。

委員長) 第3期湧別町総合計画のアンケート調査で、「インターネットやメールなどを利用するとき使用する機器を教えてください。」という問いに対して、「パソコン」が21.6%、「スマートフォン」が42.5%となっており、スマートフォンの普及が一層進んでいることがわかります。年代別では、若い世代ほど「スマートフォン」と回答した割合が多く、29歳以下で55.6%、70歳代においては27.5%となっている。つまり、スマートフォンが42.5%とけっこう多いのですよね。

次に「町のホームページをご覧になりますか?」という問いに対しては、「よく見る」が14.6%、「たまに見る」が34.4%を合わせた“見る”が過半数の49%ですが、「見ない」が46.6%と案外ホームページを見ないのである。前回話題になったLINEを使って発信するというものも得ているのかなとこのアンケートで思いました。

委員) 委員長のお話のとおりで良いと思います。

委員長) 皆さんなければ、次に進んでもよろしいでしょうか。

各委員) 「はい」の声あり。

委員長) 前回の振り返りについては、この辺で終わりたいと思います。

これより会議録の記載内容の確認をしたいと思います。会議録については、事前に皆さんにお配りし記載内容の確認をされていると思いますので、修正はありますか。ある場合には、発言していただきたいと思います。なければそのまま確定させまして、ホームページで公開したいと思います。

よろしいでしょうか。

各委員) 「はい」の声あり。

(2) 自治基本条例に基づく各種制度の取り組みについて

委員長) 議題の「(2) 自治基本条例に基づく各種制度の取り組みについて」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

西海谷主幹) (議案2～6頁に基づき説明)

委員長) 今回のテーマは、町政つまり役場が実施する仕事への町民参加に関することですが、事務局からこれまでの取り組みについて説明をいただきました。町政への町民参加について、皆さんがこれまで携わってきたことや、感じていること。町民が町政に参加しやすい環境や参加意欲が持てるような仕組みづくりについて。さらに、行政が行っている町民参加を推進するための取り組みや条例の内容に沿って実施されているかどうかについて、ご発言をいただきました。

いと思います。

委員) 町民参加に関する資料集の説明会・懇談会及びアンケート、パブリックコメントの部分ですが、これがほぼ今の現状という認識で良いですか。

西海谷主幹) そうですね。行政では資料集の15頁にいろいろな説明会を開催しておりますが、上湧別地区では義務教育学校の開設にあたって地域の方々を対象に説明会を開催したり、昨年4月から始まった総合計画の懇談会では、残念なことに参加者が1名しかおりませんでした。審議会で検討していただいた内容についての懇談会を開催したり、行政が行っている情報提供を記載しておりますので、こちらを参考にしながら皆さんからご意見をいただければと思います。

委員長) この章では15条の町民参加の方法や16条の町民の意見等の取扱い、委員が言われたような辺りが一番話しやすい部分ではないのかなと思います。これもアンケートの中に「町民の声を町政に生かす方法として必要と思うものは何ですか?」という問いに対して、「説明会や懇談会」が18.9%、「アンケート」が16.5%、「自治会や団体を通して」が17.4%のこの3つが突出して高いというのがアンケートの結果です。

年齢別では、若い世代ほど「アンケート」と回答した割合が高く、年齢が高いほど「自治会や団体を通して」や「説明会や懇談会」と回答した割合が高い結果となっています。逆に「パブリックコメント」は4.4%なのです。役場が企画したものがすべて数字が高い方が良いのかもしれませんが、実際はやりやすい方法があるなどこのアンケートを見て思いました。

町民にとってこういうやり方の方が年齢的に良い部分を良くしていったら良いだとか、ちょっと低迷している部分については、こういうことをしたらもっと良くなるのではないのかなという意見を聞かせていただきたいと思います。

委員) ここに出ている説明会・懇談会は、今あるものをどう小さくしようかという提案と懇談会だと思うのです。今既存のシステムで普通にみんなやっている。でも保育所の統合は、確実に一部は不便になっている。義務教育学校も今は各地区に学校があるけれども、子どもが少なくなったから統合しよう。通学については遠くなったり不便が生じる。少人数の学校が一つになって人数が増えてそれによるメリットもありますが、ここに出ているのは、既存のシステムを今の現状に合わせてどうやって収めていこうかという提案と説明会のみ。

例えば、町民発案の議案であるとか、新しい取り組みについて町民から何かをとという部分がひとつもないような気がします。だか

ら、まちは今後どうありたいのかという部分はどこで表現されているのかな。

例えば、上芭露の寿の家の廃止は、今あるものをなくすことについてのパブリックコメント。町営バスの運行区分の見直しは、今あるものを変化させることについて皆さんどうでしょう。我々としては利用しにくくなることについての意見集約で、皆さんどうですかという方向性が強いような気がしているのですが、実際はどうなのでしょう。

委員 長) 計画したものを説明し、その意見に対してどうなのっていうことで住民からの発信がない…

委員) この中には住民発議がなく、将来ビジョンというものの発信もない。だから、この中では皆さんの意見を聞きたい時は、縮小するものについては皆さんに理解してもらおう場にしかなくて、もう子どももいないし、人口も減ったし、こういうことだから皆さんわかりますよねっていう場にしかなくて、湧別町をもっとこうしたいとか、こういうことをすれば将来こう良くなるみたいな発信的な提案がない。

町民から出れば本当はベストなのですが、形骸的に情報を発信して意見を伺いましたという形式だけが残ってしまう可能性がある。この条例があるので十分説明しましたよねって。その部分について、どうもう少し有効に使えるかということですね。

西海谷主幹) 令和3年度に第3期総合計画(案)に対する町民懇談会を行っておりますが、この総合計画というのは10年間のまちづくりを示した計画なので、委員からお話があった部分に結びついてくるのかなと思うのと、前回お話をいただいた町長への手紙も町に対して意見を述べるができると思います。

確かに、この資料では委員からお話あったようにどちらかというと縮小というか、まとめる方が多いですけども、手紙ですとか、そういった部分でご意見というのは行政には伝えることができるのかなと思います。

委員) 懇談会である程度不便になるけれども仕方ないねとたぶんみんな思いながらできるだけこういうことも取り組んでほしいとか、もっと便利になるようにこうしてほしいというのは、たぶんそこで吸収しきれれると思うのです。

委員 長) 皆さんも北海道新聞を読まれていると思いますが、湧高にeスポーツ部ができるようですね。昨年7月に開かれた刈田町長と湧高生との意見交換会で、刈田町長が自治体としてバックアップすることで後押しするよと。最終的には湧別高校の出願者数も聞いたら町外者が増えたらいいです。

どちらかというと、こういった話は縮小したいから理解してほ

しいというのが圧倒的に多いというか、そういうイメージがあるのですが、中には話し合ったことによって盛り上がったこともあるよと。意識的にはそういう決められた説明を受ける部分であり参加してもというか、そういう意識ってあるのかなと感じます。

例えば、こういうふうによくならない話し合いだったら参加してみようかなという考えも出てくると思うのですが、どうでしょうかね。これに関連して、どういう感じにしたらもっと町民が活発に参加してくれるのかというアイデアをいただければ、今回のテーマは良い感じの意見が出るのかなと思います。

委員) eスポーツができたから人数が増えたというのは確定ではないですよ。聞いた話では、eスポーツができるなんて知らなかったと町外の方からも聞いたので、一概には言えないというか、聞いた話なので付け加えたいと思います。

委員長) 私もそこまではわからないのですが、新聞ではそれに興味を持った生徒たちがと書いてある。オホーツク管内で2例目なのですよ。そういう部分でどうなのでしょうかね。一つの湧別高校を選択してくれる要素にはなったのかな。

委員) 要素にはなっているとは思いますが、それで増えたというのもまだ調査をしていないからというのと、あともう一つあるのですが、私も湧別地区の小中一貫の説明会に出ましたが、出るときには学校を統合するかどうかを決めるのかなという感じで出席したのですが、出席した時にはもう決まっていたのですよね。もう図案も決まっています。すごい驚いて、私を含めて小学生、中学生の親は5人もいなかったです。

そういう状態で、中には地域を守りたいというお年寄りの方が多く、いろんな意見を言ってくださったのは本当に助かったのですが、やはり説明会となると敷居が高く、でも自分の子どものことに関して出てもやはり意見を言いつらい場面があって、すでに決まっているだろうみたいな感じで若い人はあまり声を出せられないのかなという気がします。

もう決まっているものには声は出せられないですよ。決まる前に上湧別地区の時にはそういうふうにしたらどうですかという感じで上湧別地区の話はもっていくようにしたと思うのですが。

だから、決まる前の説明会と言いますか、小学生の親にちょっと意見を聞ける場を設けてから進めることはできないのですかね。もう総合計画には入っていたことなのですかね。

委員長) 今の話でいくと、完璧に決まる前に意見が言える段階でもう一つワンクッション置いて、そこで練って全体の説明会をするような仕組みでないのかな。

委員) 小中一貫と言われても、校長先生は一人なのか二人なのかとか何もわからない状態で説明会に行って、何か意見を言ってくださいと言われても。予め資料とかを見れば意見も言えたかもしれないけれども、これに限ったことではないですけれども。

委員長) わかります。他のまちを見たら、今言われたように敷居が高い。こんな類のことを言っても大丈夫かなって。そういう感じの人もいるみたいです。

委員) 利用している人にアンケートやLINEとかで、こういうことをしようと思っているので意見どうですかみたいな感じでやってくれたら、もしかしたら増えたりするのかなと思います。みんなの意見をまとめるのは大変かもしれませんが、決まった事項の説明会をするのではなくてとは思いました。町民参加って言われてましたので、そこは町民が参加する前に決められてしまっていることがあったので。

猪熊課長) 今の話よくわかります。説明会をたくさんやっておりますが、僕たちの感覚では説明会という名の付くものはだいたい役場で方向性を決めているのです。決めてどうですか、それでご理解くださいみたいなのが多いのですよね。説明会となったら保育所と一緒にするだとか、学校と一緒にするだとかになってしまう。地域づくり懇談会だとかいろんな懇談会をやっておりますが、出席者が少ないですよね。地域でやっている地域づくり懇談会も少ないですし、だいたい参加される方は自治会の役員だとか、年齢層も高い人が多いですよね。来てもあまり喋れるような雰囲気ではないのも私たち出席してすごく感じてます。

ですから、ある程度どうですかっていう意見は懇談会だとか、実際にやっているのは町長と湧別高校生でやっている意見交換会だとか。逆に町長への手紙でも良いのですが、メールでも受けたりしているんで、そういう時の方がいろんな意見がしやすいのかなと思うのですよね。説明会になると何回も言うようですが、方向性が決まってしまっているような。要するに、役場として考えが決まっており、そこで反対されなかったら、そちら側に進んでいってしまうというか、そういう感じかなと思ったのですけれども。

委員) 地区の懇談会とかで意見を出してと言いますが、懇談会でこういう話をしますよという情報がないと行きづらいですよね。例えば、小学校の統合についてとか何かがあったらちょっと行って言うかと思うかもしれないけれども、川西では今年はこの議題で懇談会しますと書いてあるのです。関係ないと思ったら行きませんよね。

以前は何でも言って良かったはずなのに。2回ぐらい行ったことがあるのですが、その後は何か決められているみたいな文章が

回ってきて、いいやって思っちゃうのです。私も思いましたよ。えっ、ゆうべつ学園になるのっていう感じで、それも決まったっていう結果の情報を見てそうなのだなんて。これ誰に聞いたら良いのかなって思いました。懇談会でそういう話を出したのでしょうかね。

委員) 懇談会というのは、自治会から出した要望の検討の場なのだよね。
石塚課長) 以前は地域づくり懇談会という言い方をされていて、おっしゃったように自治会の要望に応える形でやっていたこともあります。今はそれはやっておりません。というのは、地域担当スタッフ制度というのがございまして、役場職員が4～5名それぞれの自治会に張り付いておりますので、自治会から意見をあげてもらいましたら、以前は地域づくり懇談会の中で回答する方式をとっていたのですが、そのやり方はやめて意見を受けるのもスタッフ、まとめて回答するのもスタッフというやり方に改めております。

委員) それはわかるのだけれども、その場の回答は自治会の役員にいくのだよね。それを自治会が下に流せば良いのだけれども、根本的な問題は、聞いたって若い人は決め事には参加していないのだよね。だから、その裾野をいかに広げるかという論議だと思うのです。それが出来ていないから、突如決まったことを言われたよっていう流れでしょ。

1回目ではこんな意見出ませんでしたよ。3回目でまた入らせてもらって、女性がこれだけいたらすごい意見があるのですよね。これは何かって言ったら、やっぱり女性の見方なのですよ。だから、いかに裾野を広げるかっていうことをしていかなかったら、いくら集まったってきっきの公募のように人選が偏っています。そのとおりなのですよ。やってくれそうな人だけをお願いする。そういう流れなのですよ。それをいかに人選していくか、裾野を広げていくかがこの会議のもとではないかなと思うのです。それができて条例ができてそれに従って動いていく。

今はただ偏った人だけの意見を聞いて、決まりましたよ。パブリックコメント、どうですか。良いですか。それはちよつと違くなって。だから、女性の意見というのはすごいなあと思って。これが町民の本当の声なのですよ。それを活かすような行政が考えてくれなかったら、俺も一回上に言いました。敷居が高すぎるって。

委員 長) 方向性が決まっていてそれを理解していただく前の懇談会だとかが充実すれば、いろんな意見が出てくる。その部分がもっと充実する方法を模索するというのも一つの手かもしれないですよ。

だから、懇談会が自分に関心のあることが事前にテーマとしてあがるのがわかるのであれば、私も関係があるから発言しなければならぬなっていう思いが出てくるのでしょうかね。

石塚課長) 元々まちづくり懇談会はさっき言ったとおり、どちらかと言うと道路がへこんでいるだとか、地域の身近なゴミ回収だとかの要望ばかりで、実のある話ができないというのがありまして、それは基本的には自治会要望であげていただいて、それを受けてスタッフが回答しましょうということにしました。前の町長が、地域づくり懇談会がそういう要望会になっているからそれはやめて、今度はまちでテーマを出してやってみようということで、実は学校のこともやったことがあります。

委員) 記憶にないなあ。自分は自治会の役員を20年・30年やっていて、地域スタッフも来てくれていますよね。そういう話は聞いたことがない。

委員) 石田町長の時にやっていますよね。

石塚課長) 間違いなくやっております。興味のある自治会ではたくさん女性の方が来られて、たくさんご意見をいただいたこともありますので、こちらの発信の仕方が悪いのか、私どもとしては自治会長なりかわらばんとかで必ず周知はしておりますので、後はどれだけ目を通していただけるか。それから、自治会の方からきちんと自治会員の皆さんにこういうことをやるのですよっていうのを知らせてもらえれば…

委員) それは結果だから、今の論議はいかに裾野を広げていくかという論議でしょ。やっていますではないのだよ。

委員長) ルールが少し変わっていった部分もあるし、それがわかっていなかったという部分があるのでしょうか。ただ、その辺りの情報発信のやり方がと言われるとそれで終わりなのだけれども、その辺りなのかなという感じがします。

石塚課長) まちがテーマを決めてやったのは2年間ぐらいです。学校をテーマにしたり、合併していろんな施設が2つあるので、それをこれからどう縮小していったら良いかという話し合いもしました。

次の年からは、こちらから出すのではなくて、自治会からテーマをあげてくださいという方式に改めました。それが今の形です。今年も19自治会12会場でやりまして、3割ぐらいが自治会からテーマをあげていただいて話しました。それ以外のところは、フリートーク形式でやりました。なかなか参加してもらえないのが実情で、今年は12会場で210人ぐらいですが、一番多いところでは登栄床自治会で50人ぐらいでしたか。登栄床自治会は毎年必ずそれぐらい出てくれていますので、それは自治会の取り組みの仕方にも差があるのかなという気がします。

中には、川西、信部内、旭は合同で集ってやるのですが、話を聞いたら合同でやるのなら役員だけが行けばいいやっていうふうになっている自治会もあるみたいなので、集客というか、人が集まる

ところには繋がっていないのかなと感じています。

委員) 210人のうち女性の比率はどれぐらいですか。

石塚課長) 男女の比までは確認していません。

委員) 登栄床の場合は女性が多いのですが、漁業関係者が多く、漁組の女性部は地区でも支部をもっておりますので、その人たちに自治会の協力団体ということで自治会の運営に協力していただいているので、部長を中心に女性部から各班何名というお願いをしているものですから、20人近く今年も集まっていただきました。

委員長) 自治会からこういうことをしてほしいとあがってくれたら現実的なのですが、学校だとかは自治会をまたいだ話になるので、自治会からの意見ではどうなのかな。やはり学校だったらPTAだとかそういう団体があるから、そこからどうのこうのっていう話にはならないの。

委員) なっていますよね。

委員長) 学校関係はやはりPTAだとか、そこから始まるのではないのかな。

委員) 今はコロナ禍なのでPTAは集まらないですし、参観日もないので、親同士の交流がないのですよね。なので、この学校が決まった時も新しい学校ができてそこには4年生までしか入らないのだよって。5年生から9年生までは古い校舎を使うという情報を知らない人がすごく多く、もう中学生が使っているのですが、そういう情報も知らなくて、新しい学校に入れると思っているお母さんがいっぱいいて、中学校の方も新しく直して入る形なので新しいものには入るのですが、そういう情報もできあがってから広報に載せますという形だったり、やっぱりできてからという感じに思っちゃうのですよね。ホームページには逐一工事の状況とかは載せていますというのですが、そういうのもやっぱり発信かなって思うのですよね。

制服が変わるのも気にしているお年寄りとかは学校どうなるのって声をかけてくれる人はやっぱり気にしているのだからっていうのがわかるのですが、まちづくりとして情報の発信の仕方というか、興味がある人は興味があるけど誰に聞いたら良いのだろう、どこを見たら良いのだろうっていう感じで、言いたいけどどこに言ったらわかるのっていう感じなのかなというのがあります。

興味のない人は本当に興味がないから調べたりもしないのか、調べるまではいいかっていうのとかがいろいろですけど、でも今はコロナ禍だから喋る機会がないのですよね。聞きたくても聞けないという場が多いのですよね。

委員長) 説明会の前の前段の話し合いが重要だよってというのはたぶん…

委員) こういう意見があったら町長への手紙に書いたら良いよとか、私

たちが発信していけば良いのでしょうか、自治会に言って要望をあげたらもしかしたら通るかもしれないぐらいの発信の仕方があっても良いのかな。

委員) 丁寧な説明はやっていると思うのですが、なおさらやっていただきたいというのがありますね。今の話を聞くと。少子化になってきているし、今の学校を維持するのも良いのでしょうか、やはりお金のかかることになってくるので…

委員) だから、学校に入る前の子どもというか、結婚して子どもを産んだ親からも意見を聞いてほしいと思う。

委員) 人が減っていく時代なので、どうやったら食い止められるかみんな四苦八苦していると思うのです。若い人をどう育てていくかが喫緊の課題だと思うのです。どこもそうだと思うのですが、そのためにきちんとした丁寧な説明がもしなされていない、まあコロナ禍もあるので…

委員) たぶん懇談会の質を上げなければいけないと思うのですよね。皆さんの意見を聞いたら。懇談会に行って意見を言えば反映するという実績をどんどん積み重ねないと、行きたがらないと思うのですよね。先ほど言っていた最初からありきの説明会で、皆さんすいませんけどこれで納得してくださいというような説明会にならざるをえない部分はわかるのです。行政側としては。だから、もう決まりというところで皆さん説明会ですというよりもうちよつと下がったところでの説明会が開かれれば、もう少しは反映される余地は残っているという部分。

今、上湧別地区の学校を義務教育学校化っていう話を令和7年度にやりますと。たぶん子どもがいる保護者は仕方ないよね。今は子どもが少ないのだからとたぶんみんな納得するけれども、それがどんな形でできるかというのは、意見を反映してほしい。そうなるのは仕方ない。たぶん誰も文句言わないのですよ。だけど、自分らの望む姿で展開してほしい。こういうのを取り入れてほしいというのを説明会ではなくて懇談会の段階でどれだけ吸い上げて実現するか。そういう取り組みを続けて懇談会の重要性をみんなが認識すれば、参加者も増えるし、目も行く。その部分では町長への手紙やメールが一番簡単な提案の仕方だと思うのです。一対一で直接町長に。たぶんそれは意見としては一番弱いですよね。集まった皆さんの意見を集約する懇談会の方が力がありますよね。

皆さんから要望がきてどう取り組んで結果に反映されたかをしっかりとみんなに情報提供していかないと、行きたがらないですよ。今は情報社会ですが、見ない人は見ないですよ。広報の中のかわらばんであったり見る人は見るけど、新聞にeスポーツって出ちゃうと、町民からすると何eスポーツっていうような状況

にもなるので。

どうしたら見ますかね。結果、反映されたらいいようになるとは思うのですけれども、少しずつでも…

委員) 興味が湧かないと行かないですよ。もう少し見てもらえるように皆さんが言うような方向に持っていけないと、参加はしないかなと思います。

委員) ことばが堅苦しくて、何これパブリックコメント。かっこして書いてくれているけど、意見を募集してますではダメなのかなと思ってしまい、何を書いて良いかもわからない。毎回出ているのだけれども、こんなの出す人いるのかなと思うぐらい何をどう考えて良いか、どれもこれもがわからない。

第3期総合計画の懇談会に1人しか来ていないというのも、総合計画に対する町民懇談会って何をやる、何を言うところなのかが全然わからなくて、先ほど10年間の計画を立ててという説明があって、その時に自分らがこんなふうにしてほしいというのを言えばいいところなんだというようなことを書いてあったのかな。総合計画だけの懇談会って誰が行きます。何をしているのかも全然想像がつかない。

委員) 私も10年計画って書いてあったらたぶん行ったと思う。

委員) これすごいヒントだよ。いかに女性の心を掴むかだよ。自分は総合計画にも参加させてもらったのです。その議案は予めいろんな団体からまとめたと思うのだけれども、出来上がったものをどうですかね。その前の段階はたぶん役場でやっているといるのです。

今いろいろ話を聞いたら女性の意見というのはすごいなあと思って、これをもうちょっと行政が女性だけの懇談会をもつとか、女性の意見をもうちょっとあれすれば、町も変わっていくのかなと思いました。

委員長) 本当に間違いなく言われたように、説明会の前の懇談会がいかに重要か。それでみんなが納得して話が聞けるか。落としどころで…

委員) 落としどころでより良い提案が通るかどうか。

委員) それができれば、総合計画だって1人ではなくて何十人って集まったと思う。自分が言った意見が通ったとなったらちょっと聞いてみようかなとなるだろうし。そういうのができていないのかな。

石塚課長) 制度的にはあるのですよ。

委員) やっているとは思っています。その積み重ねでやっているのだけれども、その告示ができていない。

石塚課長) 努力はしているつもりなのですが、知れ渡っていないというのはこちらの…

委員) 自分だって知らなかった。

石塚課長) 前回の会議でも話しましたが、町長とのふれあいトークだとか、例えば農協の婦人部で人数が集まったら町長行きますよだとか、別に団体でなくてもよいので5人集まったらそこに町長行きますよというお話をしていますが、ただコロナがあるのでそういう機会を作るのは難しいのかなと思うのです。

私どもの周知の仕方も悪いとは思いますが、こういったところで皆さんが話を聞いていただいて、周りの人に口コミで広めてもらったらそういうところから輪が広がっていくかなという気もしますので、ぜひ皆さんの方からも知り合いの方にこういう制度があるということを伝えていただきたいなど、逆にお願ひしたいと思います。

猪熊課長) 先ほどの話に戻るのですが、実は湧別地区の義務教育学校が実施設計から最終的に完成するまでに5年間かかるのです。もう入っていますけれども、来年度に体育館直すよとか外構工事やりますよとか5年間かかっているのです。来月から議会が開かれ上湧別地区の義務教育学校の関係も論議されるのですが、最短でも3年間かかるのです。要するに今年実施設計して、2年間かけて増築したり改築したり。

先ほどある程度固まる前にとという話になると6年7年かかるのでそこで考えてほしいのが、小学校1年生だった子がもう卒業していなくなってしまうのです。小学校だけのことを考えると、いろいろ手順があり、設計したり国から補助金をもらうだとかがあつて、下手したら卒業してしまうので私が思うのは、小学校建てるよって生まれたばかりの子どもの時ってあまり意識していないと思うのですよね。だけど5・6年したらもう小学校に入る年になっているのですよ。生まれた子が。その時にまだ生まれたばかりだったら、小学校のことを考える余裕ってあまりないですよ。まだ保育所ぐらいであれば良いのだけれども、小学校のことまではまだ先だと思うのですよね。実際に自分の子どもが小学校に入る時にはもう決まっているってなってしまうのかなと思うのですよね。教育委員会でも懇談会とかで保育所の親御さんにも話をしていると思うのですが、そういうギャップがあるのではないのかなという気がしています。

それと、先ほど言われた女性だけの意見という話もありましたが、実は合併前の上湧別町時代に広報を担当したことがあつて、その時にまちづくり青年会議だとか、まちづくり女性会議というのがあったのです。その時は委員を確か10名ずつお願いして最初は公募してやりたい人ってやったのですが、最終的にはだんだん減ってきて、頼んでやってもらっていたのです。最初は盛り上がる

のだけれどもだんだん意見がでなくなって、最終的に私がいたときにやめたと思うのですよね。過去にはそういうこともやったことがあるのですが、そういうことももう一回やっても良いのかなと思いましたがね。

学校の問題もそうなのですが、参加されるのは地域の役員たちで、実際に子どもが通っている親御さんはあまり参加しないし、来ても意見は言えないって言うのですよね。親みみたいな人が役員だとか自治会長とかになっているので。そういうところが今でも同じようにあるだろうなと思うだろうし、決まったことをそのまま仕方なくというか、そういうのがあるのだろうなと思います。

委 員) おっしゃったこともわかるのですが、すぐ決まって制服代いりますよ、何がいきますよって言われると、やっぱりえつとなる部分もありますよね。徐々にこの何年かでも保育所の時代から小学校あがったらこういうものにお金がかかってとかというのを少しずつわかれば、今は子どもを産む数も減ってきて、それは教育費とかにもいろいろかかるからそういうところも悩んで産まない人もけっこういるとは思っています。

やはりパッと決まってあれ必要これ必要と言われるよりは、徐々に言っていた方が良かったのかなって。決まった時点でも芭露学園はうまくいっていますからという意見しかなく、それだけで発信されてもこちらは何を聞いて良いかもわからないしという部分がたくさんあって、そこでいろいろこれから決めていきますというのわかるのですが、ある程度のビジョンがないのにもう作っちゃって進めていくのだなという何か不思議だなんて。

廊下の壁も透明というかアクリル板なのです。腰高までの丸見えなのです。それを聞いた時に子どもたちはそわそわしないですかと意見として言ったのですが、そわそわするようだったらポスターか何かを担当の先生が貼るでしょうという感じだったのです。私はわからなかったのですが、芭露学園はそういう感じで大丈夫だからこういう感じにしたのですと言われても、芭露と湧別は違うかなとか。体育館を建てるとなったのも、自治会の方が体育館ひとつで足りないのではないのと言われてたぶん増築されたのですよね。

役場としてどこまでのビジョンがあつての学校づくりなのかというところをその時は知りたかったなという感じで、決まってもあつ決まったんだと言って意見何かありませんかと言われても、その時はわからないではないですか。でも建ててから壁はこういう感じだとか、制服いるだとか何いるってなると…

委 員) 制服って何ですか。

猪熊課長) 要するに中学生の制服が変わるのですよね。

委員) 中学生が着ている制服が、セーラー服ではなくなるのです。それはジェンダーレスとかそういう問題が出てきてという説明を受けたのです。やっぱりスカートだとそういうジェンダーの問題が出てくる今後に関して、この学校を建て直した時に変えましょうという感じで…

委員) それは誰が言ってどう決まったのかわかりますか。制服は今はジェンダーレスの時代だから、この機会に変えた方が良いのではというのは誰が発案して、どう決まったのですか。これから入る親は一切関わっていないのですよね。

委員) 私も会議には出ていたので知っているというか。でも変わりますよ、変えますねみたいな感じだったので。その会議に行ったからわかったことで。

委員) みんなが知らないということですよ。

委員) 入る人はもう知っています。

委員) 会議に出た人は制服が変わることはわかるけど、他の親たちは中学校に入る人たちはわからないということだよ。

委員) 今の6年生は説明を受けたので、買うのは知っています。ここ3年間で変えていく感じですよ。そういう発信も知らない方が多くて、それは当事者の親がそこまで気にしている親と全然気にしない親と人それぞれなのですけど。

だから、上湧別地区はきっと芭露とか湧別を見てもっと良いものができるのかなとか私にしたらそういうふうにも思ったりとか。

委員) 良いかわからないのですけど、そういう形にしていかなければならないというか、そういう危機感があるかどうかですよ。将来に向かっての危機感というか、私も勉強する機会が札幌であったのですが、子どもたちがずっと減っているのですよね。50年前といたら40人クラスで2クラスとか3クラスがあったのですけど、今の中小は1クラス20人いるかいらないか。その人たちが50年後といたらその人数でしか人はいないのですよ。

今はいっぱいいるけれども、人口が減るのは間違いないですよ。各地域がどうやって生き残るかを考えなければならぬと思うのです。まだまだ周りに人がいなくなると思うのです。そういう現実を見ながら考えていく。そこが大事だと思います。

委員) 小学校1年生にあがったら何もわからないではないですか。中学生ぐらいになれば、こんな感じだよって教えられる場があれば聞けますけど。

委員) そのためには友達もきちんといなければならぬし、次の世代に何を残せるかを考えてしまうのですよね。近未来的には自分の家でリモートで学習するようになるのかわからないのですけど、自

分は農家をやっているのので周りに農家をやる人がいなくなったら本当にここに居て良いのだろうか。

だけど、孫とか息子がやるようになったらどうやってこの地域を守れるか考えていかなければならないかなってそういうギリギリのところに来ているのではないですか。

委員) そうだと思います。聞ける人がいるなら良いですけど、それこそママ会みたいなものがなくなって、誰に聞いたら良いのかなというのが増えてきたとしたら、まち全体としてもあまり良くないかなと思うのですよね。

委員長) 子どもが学校卒業してすっかり学校と疎遠になってしまったのだけれども、学校の話を書くとなるほどなと思いました。その時その時の考えがあるので、そのタイミングで決断し決まったことが引き継がれていくと。大事なのは決めた時に当事者たちがそこに携わる学校関係者だとか、生徒の親御さんだとかそういった人たちが納得して決めたという思いがあった方が良いのかなって。

そうすると、私たちはこういう考えでこういう形を取ったということの後々に説明できるというか、伝統ではないけれども何でこうなったのかと言ったら、あの時私たちたくさん意見出して考えてこういうスタイルがベストだと思ってそうしたのだよって。だから、そういう物事を決める前の話し合いがすごく大事だなって。だから、そういう部分でいかにみんなが参加してこういう形を作ったのだよという反映する実績が必要なのかなという感じがしますよね。

一生懸命情報発信もしているとは思っただけけれども、こういうアンケートを見ると懇談会だとか、自治会だとかそういう説明会の方が良いという人の方が多いみたいなので、その辺りを充実した方が良いのかなという感じが個人的にはしています。

委員) 現実的に中学1年生でいるのだけれども、学校ができるころには卒業している状況ですが気にはなります。去年、説明会みたいなものがあって話は聞いたのですが、決まったことの報告ということと、上湧別地区は結構参加した人数が多かったと聞きまして、お母さん方の意見が多かったと思います。毎回のことももしれないけれども、貴重な意見とか質問だとかもありましたね。

学校の施設の中身だとかはまだわかりませんし、7年に開校することに決まったようですけれども、卒業してしまうのですがどういう形になるのかすごく興味がありますね。そういう前段階の懇談会というか、そういうところに行かなければ話も聞けないし、反映もされないし、反映されなければ行かなくて良いかなとなるのもわかりますしね。

委員) 何か話してと言ったら、たぶんここにいるみんなは電気代が高く

で困っていることと、物価が上がってどうしようか悩んでいます。親は高齢で歳をとってきて介護代なり何なりどうしたら良いか困っています。この会議の目的は違うのだけれども、各々の思っている案件で一番困っている案件はまずはそこなのです。それを踏まえて、自治会の懇談会とかで意見集約の会議をする時にたぶん問題は起こらないと思うのです。皆さんから意見をくださいと言っても。

問題というのは、道路に穴があいているから直してほしいとか、ごみ収集の回数をもっと多くしてほしいとか日常の案件が多少は出ても、将来のビジョンについて例えば学校を義務教育学校化にするだとか、そういう案件を提案する人はいないので。問題意識が持てないのです。そもそも持てない。日常生活していても義務教育学校にした方が良いねというのは考えないので。発案されてやっと意見を言う。それが普通だと思います。

義務教育学校にすると言った時に説明を聞いた中で制服が変わることを聞いて、初めてお下がりが使えないという問題が発生するのです。問題がいつ発生してという部分のタイミングの取り方。行政としては、ある程度固まらないと話せないではないですか。骨格と予算が。箱とシステムは行政が作るのです。こういう建物でこういうシステムでやりたいけど細かい案件については、町民はいつ発生していつ言えるかというタイミングが計れないのです。

制服が変わることを初めて聞いたって。そういう問題がいつ発生するかわからない問題を吸い上げるタイミングと、吸い上げて処理するシステムが見えにくい。だから、懇談会に行ってもなかなか反映されていない感覚というか、そもそも懇談会の時点では問題は起こっていないのです。制服が変わるのならお下がりが使えないねというのが発生した時の問題の発生タイミングと処理タイミングをどう処理するのかというのが見えにくい。

もう決まったことですよというような納得の仕方で初めて聞いたというような納得の仕方。そのタイミングでどうやって処理するかを流動的にできるのかどうかですよ。問題の発生タイミングで流動的に処理できるかどうか。

先ほど言っていた壁が透明というのも流動的な案件ではないですか。芭露ではそれで良かったけど、湧別の義務教育学校ではちょっと子どもたちドキドキしてしまうのではないのかなというのは後から発生した問題というかテーマではないですか。それを処理する能力があるのか、処理のタイミングですよ。そういう部分がちょっと見えにくい。それをもう少し解決すれば、提案しても解決してくれるよねと信頼に繋がる。それが町長に直接なのか懇談会なのかという部分はあるのだけれども。

町長に直接話せる人は良いのだけれども、みんながそうするわけではないので、そういう小さな声をうまく問題として汲み取って問題発生タイミングで処理する。それをもっと制度なり仕組みの精度を上げてほしい。

委員 長) 制服を決めるのはどこの部署ですか。

猪熊課長) 役場では教育委員会が担当ですが、たぶん学校が勝手に決めるわけではないので、PTAの役員なり主要なところで打ち合わせをしているはずです。

坂本課長) 恐らく湧別地区も芭露地区も統合して義務教育学校ができるうえで開設準備委員会という組織を作っているはずなのです。その組織の中には校長先生、教頭先生、PTAの役員、あと地域の学区の自治会の代表の方とかがメンバーとして入って、例えば学校名をどうしようとか、校歌をどうしようとか、さらに一番大きいものは委員会で決めるのではなくて、子どもたちにアンケートもとりましょうとか。学校名とかのアンケートはとっているはずなのです。そのものの重要度感に応じて、さらにいろんな意見を聞くか聞かないかという判断をしていたのかなと推察されます。

委員) 委員会では学校名と校章と校歌と、制服はジェンダーレスと言われたらそこはそうですねと言うしかないという感じのほしいその4つですね。あとは開校式までどうするかという感じで、校章とジャージは子どもたちの意見を取り入れてやってはいるのですが、建物はもう決まっているのです。でも決まったことの発信はできていないということですよね。委員会で決めたとしても、ここまで決まっていますよという発信ができていない。

坂本課長) 現実的に地域の方が皆さんご存じないということは、発信する力が弱かったということになるろうかと思います。恐らく学校だよりとかで周知はしているとは思いますが、せっかく準備委員会の中に地域住民の方ですとか、PTAの保護者の代表者の方がおりますので、学校もPRするけれどもその会議に参加した方たちも地元というか組織に戻ったらこう話し合ったよというフィードバックもしていただいて、そこで吸い上げていただくのとよりもっと生々しい話を吸い上げれるのかなという気がします。

情報の発信力が弱いというのは、この学校問題に限らず私たち役場の仕事というのはPRが下手だと言われておりますので、それは身に染みて感じております。

委員 長) 今話を聞くとペーパーだけで発信するのは弱いと思うので、ポイントは人と人ですね。聞いたことに対して一人のお母さんが複数のお母さん、関係者、学校であれば学校の学生の関係者に発信し、その中でそうなのだからこういうことになっているんだとかそういう会話も必要なのかなって。

要は巻き込むというか、そういう流れになったら町民参加でしたっけ。そういう効果も出るのかな。どうしても書面だったらとつきづらいというのがあるのかな。よほど気にして見ないと見る機会がないというか。だけど、会話だと話している時にその伏線でだんだん話というかそれが広がっていった。こういうことにもなっているのだねって。当然決められたことをフィードバックしていただくのは基本なのかもしれないけれども、そういう人との会話も必要なのかなと聞きながら思っていました。

委員) これどうやってまとめるの。

委員長) 全部まとめてですから。自分の言いたい部分をまとめて。ここは答えを出す場ではないですよ。いろいろ出し合って、後半の2回ぐらいの会議でこれが必要だよ、これ重要だよという部分を肉付けして提言する会なので。

委員) 今回の会議はすごい重要だと思う。これ条例に入っていないよね。こういう女性の意見とか。本当堅苦しいのだよ。

西海谷主幹) 条例なのでどうしてもこういう作りにはなってしまうのです。

委員) それはわかるのだけれども。

委員長) だけど、話しているうちに柔らかい話になって、僕的には良いなという感じがします。

委員) そう思います。はっきりわかったのは、本当に情報の発信が下手くそで、裾野まで情報がいっていないのだから。それをいかに町民が参加できるようにしていくか。いかに条例に盛り込めるかだよ。

委員) たぶん条例の文章自体はほぼ変わらないで納まると思うのですよ。それをどう運用するかを今回集まったみんなでもっとこう運用してよというのは条例の一部は載るかもしれないし載らないかもしれないけれども、僕たちはしっかりそういう意見・提案していますよというのをこの場で確認するのが今回の自治推進委員会の落としどころというか。

先ほども言ったように懇談会の質を上げるのと、どういう案件がどう結果に反映されたかというのをしっかりとみんなが周知すれば、もっと意見が出しやすくなるよね。意見を出すためには参加もする手伝いもするという部分が条例に載らなくても質の向上を図ろうという部分。みんなそうだよねという会議にしていくのかなという気がしているのですが、先ほど総合計画の話をしていましたが、総合計画も条例にちょっと砕けた感じかなという気がする。

大きな方向性としては、こういうまちづくりを今後10年間やっていきましょうねという提案であって、具体的なことはそんなにないのですよ。こういうことしますというのは各課だったり各

担当のある種のさじ加減で、そこには我々の意見を言って良くしてもらおうと。総合計画や社会教育の中期計画もそうですが、落としどころってなんぼでも行政側でさじ加減ができると思っているのですよ。やってもやらなくてもさほど行政側の責任が発生しない。総合計画も中期計画も。我々がどれだけこういうふうにしてほしいと言わない限り、総合計画にしる中期計画にしる良くはならないと思っているのです。

パブリックコメントでホームページに載せたりいろいろ発信して皆さんどうですかと言ってもあの文面自体大した面白くなくて、でもあれは方向性のみであって、例えば方向性を総合計画で出した時に具体的に何をやって楽しくするのかというのは、誰かが発信したり、町や議会がたぶん提案するのですよ。総合計画や中期計画というのは、まちを楽しくしたいというぐらいの勢いで、我々はどういうのが楽しいかといったらこうやったら楽しいのではないという。だから、あれを見て何かを言おうとはあまり思わない。

西海谷主幹) 前回の会議でもお話しましたが、総合計画のパブリックコメントやりますよとホームページとかわらばんを使って周知をさせていただきましたが、意見を述べるには計画の中身を見ないと述べられないですね。総合計画は100頁近くあったと思うのですが、それを全部読んでから意見を述べることとなるので、そうすると意見がしづらくなるのかな。

特に計画に対するパブリックコメントは比較的意見が出てきていないのですが、そういったことも意見を出さない、あまり関心が持たれない要因の一つなのかなと思います。

委員) あれ自体具体的ではないのだよね。案件になりにくい。

西海谷主幹) 総合計画というのはまちの方向性を示す計画であって、具体的なものについては各課にいろいろな計画があるので、その個別計画の中で記載する形になっているものですから。

委員) だから、総合計画は解釈の仕方がいくらでもできるのかなと思っています。

委員) 意見を聞いていると、こういう発言ができる年齢っていったらあれですけど、今は言えてますけど、この先失礼ですけどなり手もないですし、本当に意見を言う人がいなくなってしまうのではないのでしょうか。役場はきちんと考えてやってくれるとは思いますが、そこを考えていかないとちょっと厳しくなる。こういう委員もまた同じ人になってしまう感じになるので、ちょっと発信の仕方を考えていただいてという感じをお願いしたいですね。

西海谷主幹) 実際にこの委員会も委員を募集したのですが、残念なことに応募がなかったものですから、改めて各団体に推薦の依頼を出させていただきました。

委員) 私も頼まれたのですが、頼まれた時は何をするのがわからない状態だったので、わからないものに手は挙げられにくいですし、意見も言いにくいかなと思ったのですが、1回目の会議でぎっくばらんに言ってくださいと言ってくれたので、言いやすい環境だから言えることであってというのがありますよね。

なので、もうちょっとかたぐるしくなく、町の総合計画を100頁も読んで意見を言うかとなるとちょっとあれですけども。

西海谷主幹) 今回の自治推進委員会は前回も途中から担当させてもらいましたが、条文を説明してこの条文どうですかと聞いても皆さん発言しづらいと思うのですよね。なので、今回は前回の経験を踏まえて、行政はこの条例に沿っていろいろな取り組みを行っておりますので、それに対してどうなのかというご意見をいただきたいと思ったのと、例えば一つの例を挙げれば、審議会の委員を公募しても手を挙げていただく方がいないものですから、逆に皆さんに興味を持って手を挙げていただくにはどうしたら良いのでしょうかねというようなご意見をいただければと思っています。

委員) 私がこの会に参加したのは、役場から漁組の方に電話があったまま部長をやっているものですからどうしますってきたのですが、これは何をするのと思いました。参加してほしいのはわかるのだけれども、何の参加なのかがわからないと私やりますとはならないと思う。だけど、漁組からきたし部長やっているから引き受けたのですが、やはり内容がわからないと参加って。漁師だから冬期間は何もやっていないから午後7時からでも6時からでも良いのですが、仕事が始まると7時から私にとってはちょっと辛い部分もある。

委員長) 全部で10回するのですよ。今日3回目だからあと7回。一番お願いしたいのは、出席だけはしていただきたい。少ない人数でやっても良い話にはならないので、これだけの人数で意見を出し合うのが一番良い形なのかなと今日確信しました。

だから、あと7回。忙しいと思いますが、ぜひ時間を作って事務局もそのために3日ぐらい打診してそこで調整してやっていますので、よろしくをお願いします。

委員) 調整する必要がないのではないのかなという気がするのだけれども。結局、希望出しても日にちと時間に関してはその通りにはいきませんよね。それであれば、そちらの方で決めてもらった方が良いかなという気がするのだけれども。

各委員) 「その方が良い」の意見あり。

委員長) わかりました。

委員) 次回は5月と言ってましたよね。

委員長) これは次に話しますので。

猪熊課長) それであれば、次回の日程を今日決めてしまった方が良いですね。

委員) 稚貝が始まると私はちょっと出席が辛いのです。

委員) 次回は概ねいつでしたか。

西海谷主幹) 5月です。

委員) 5月なら下旬ですよ。

委員) 5月10日から稚貝が始まり、順調にいけば末には終わるのだけれども。

(3) 次回会議日程について

委員長) 次に議題の「(3) 次回会議日程について」事務局から説明をお願いします。

西海谷主幹) 皆様のご意見を踏まえ、この会議の場で次回の会議日程を事務局で何日か候補を示して決めさせていただくことでよろしいですか。

各委員) 「はい」の声あり。

西海谷主幹) 次回の会議ですが、事務局では5月の中旬を目途にと考えていたのですが、出席がむずかしい方がおられたので、6月6日の火曜日から9日金曜日の間で事務局で決めさせていただいて、案内させていただきます。

委員長) 事務局から説明あったように、委員の皆さんから前向きな意見もいただきましたので、事務局が調整して後ほどご案内することでよろしくをお願いします。

委員) 次回はどういう方向性の話をするのですか。議案が送られてくるのが開催日の10日ぐらい前ですよ。だから、もしそこでこういう資料がほしいと言ってもこの場では出ないので、次回こういうテーマで皆さんにお伺いしたいのだけれども、もしわかるのであればその時にこういうことについて聞きたいからこういう資料も一緒に揃えてほしいと言うことができるのですが。

西海谷主幹) 次回は第4章の町民投票から第5章の町民までをやる予定です。なので、これに関する資料についてはこちらで準備するつもりですが、もしこの部分で何か事前にこういった資料を用意してほしいものがあれば、事務局までご連絡いただければそれに沿った資料を用意させていただきます。

委員) 次回のテーマには外れると思うのですが、各自治会のコミュニティの現状についてこの場で考える必要があるのかどうかと思うのですが、どれだけあってどれぐらいの人がいて、自治会長を何年やっている。次回は入らないと思うのですが、その次に向けては現在のコミュニティの実情についての資料があれば良いかな。今の自治会長の後継者がいるのかいないのかという話もしながら、各自治会組織が十分な能力を発揮できているのかという部分もたぶん

各自治会では問題にしていると思うのですが、その次の次に向けて情報があればと思います。

西海谷主幹) お話いただいた内容はこちらとしても記録として残しておきますが、できれば次回の会議でもお話いただければと思います。

委員) 毎回会議の終わりに次回こういうことをやりたいので、皆さんからどういう情報がほしいかという確認を毎回やっていただきたい。

委員) 皆さん熱い議論をいただきましてありがとうございます。私もお願いしますということで訳もわからないでこの場にいさせてもらいながら、自分の置かれている立場というのものもあるのだけれども、あくまでも湧別町自治基本条例が意見を吸い上げる状況にあるのか。裾野を広げるためにはどうするかということに対してアドバイスできれば。答えが導き出せればそれで良いのかもしれないし、もうちょっと良いものがあるのかもしれないけれども、あと7回ですので、委員長が言ったように協力してやっていきたいと思えます。

4. その他

委員長) 最後にその他として、皆さんの所属している団体から何かありますか。
ないですね。

5. 閉会

委員長) 以上で、第3回目の自治推進委員会を閉会させていただきます。
本日はありがとうございました。